

平成27年度 第2回公立大学法人公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 平成27年8月6日(木) 16:00～17:20
- 場 所 ホープスターとっとり 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 高橋一委員、三野徹委員、小林槇太郎委員、岡田昭明委員、富岡庄一委員、岡崎誠委員、今井正和委員、千葉雄二委員、田中仁成委員、中島廣光委員、山本仁志委員
[11名/14名]
- 欠席者 角紀代恵委員、木下法広委員、常田禮孝委員

【議事】

- 1 前回議事要旨の確認
原案のとおり了承。

- 2 審議事項

- (1) 平成28年度入試概要(大学院)について
資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

- 3 報告事項

- (1) 近況報告
資料に基づき報告があり、以下のとおり質疑応答がなされた。

<質疑応答>

- ・交換留学について、おそらく単位互換となっているだろうが、留学先で受ける言語の授業は、その国の言葉になる。単位を取得するには、外国語が堪能ではないと難しいと思うがどうか。
→受け入れる学生は、日本語を習熟しており、個人の自由に授業を選択させることができる。
本学から外国へ留学した学生は、語学力が十分であるとは言えないこともあり、留学先の語学研修コースを、基本的には受講している。その後、帰国後にもう一度、本学において語学の試験を行うことで単位認定をしている。
- ・オープンキャンパスについて、多くの人が参加予定だが、参加者の何割が受験しているか等のデータは取っているか。
→受験者と参加の有無の照合は行っていない。
- ・まちなかキャンパスの利用状況について、徐々に一般市民にもその存在が認知されており、良い傾向にあると思う。
麒麟地域活性化プラットフォームの活動は、最近いかがか。
→・但馬地域との交流も踏まえ、色々と事業を計画している。
・今後の課題を含め、学生と地域の交流を、コーディネータ中心に考えている。
英語村を活動の一環としても活用し、まちなかキャンパスのコーディネータが行政・地域活性化団体のメンバーと交流し、活動を広げている。

・こういう組織が環境大学と一緒にコミットできるというのはとてもいいことと思う期待している。

(2) 平成27年度補正予算（第2回）について

資料に基づき説明があり、異議なく承認されたため、翌日の経営審議会にて承認されたのち、決定されることとなった。

(3) 公立大学法人公立鳥取環境大学中期目標に係る中間評価について

中期計画の内容について、中期計画を達成するための目標の見直し等、変更箇所等について説明があった。

<数値目標数の変更>

①オープンキャンパスの参加人数

②退学率…目標値：9.2%だが、計算方法に問題があると考ええる。

一般的に、全体の学生数を分母に、分子はその年の退学した学生数としているところを、ある学年の学生が、4年間に退学した割合をカウントしている。この計算式だと、退学した学生数が多すぎる印象をうける。

③就職率 本当の勝負は今年の卒業生（公立化して最初の卒業生）

学生の意識、地域の経済力、地域への定着（都会との賃金差）が重要。

<質疑応答>

・就職率について 県でも、生活の水準を考え、確かに大都市に比べると給与水準は低いかもしれないが、生活上の支出も少ないので、トータルは変わらない、というパンフを作っているの、学生にも周知させてあげてほしい。

→・出費が少ないというより、奨学金の返済等、なかなか県内の民間企業へ積極的に進めがたい問題もある。以前に比べ、かなり奨学金の負担も大きい。

4 その他

学長より、カリキュラム改革について今後の見通し等、説明があった。